

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 1290100195 | | |
| 法人名 | 有限会社 暮らしの里 | | |
| 事業所名 | グループホーム暮らしの里さくら苑 | | |
| 所在地 | 千葉市中央区都町6-9-70 | | |
| 自己評価作成日 | 令和5年4月10日 | 評価結果市町村受理日 | 令和5年6月30日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-----------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと |
| 所在地 | 千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7 |
| 訪問調査日 | 令和5年4月28日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

温かみのあるもう一つの我が家を理念としています。
 ご入居様が笑顔で生活できるように努めています。
 職員はご入居様とかかわりを大切にしながら、信頼関係を築くように努めています。
 ご入居様のレベルや個性を理解しながら、できることに参加していただくように努めています。
 職員はご入居様に尊敬と思いやりを持ちながら接するように努めています。
 現在も新型コロナ感染予防のため、ご面会を制限させていただいております。
 現在までコロナ感染者を出すことなく生活していただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

温かみのあるもう一つの我が家を実現するため、利用者本位の個別支援に力を入れて取り組んでいる。新型コロナウィルス感染防止対策は、安全を第一と捉え、家族の面会はホームのエントランス部分までに制限している。また検査体制など感染防止の取り組みを継続することで、安心して暮らせる生活を守っている。利用者本位の個別支援とともに、職員個々の成長や働きやすさも大切に考え、組織運営をおこなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 1290100195 | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「温かみのあるもう一つの我が家」を心掛け生活していただけるように努めています。 | 理念、方針を日々のケアに活かすことができるよう、職員間で積極的にコミュニケーションを取っている。利用者本位の支援の実践がおこなわれている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 新型コロナ感染予防対策により、現在も交流はできていない状況にあります。 | 新型コロナウィルスの流行を受け、地域交流を対面で実施することは、感染防止の観点から実施していない状況である。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 新型コロナ感染予防対策により、現在も地域の方々との関りが減っていることから支援方法を生かすことが出来ていません。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 新型コロナ感染予防により、現在も書面開催となっています。書面での意見等が少ないため、日ごろの相談や希望等の内容を活用し、サービスに努めています。 | 新型コロナウィルス感染防止のため、自治体から、書面開催とするよう通達が出されている。これに沿って当ホームでも書面会議をおこなっている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市の担当者に相談しやすく、現在も協力体制を築くよう努めています。 | 必要なことがあれば随時連絡をとり、行政との連携を密にしている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束禁止を掲げながら、研修を取り込み、職員に周知するように努めています。 | 会議および日常のミーティングなどで、身体拘束や虐待について繰り返し話し合い、理解を深めている。外部の事例や注意点などを共有し、意識を高める取り組みをしている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修時には、虐待を見逃さない、また、報告と義務についても学んでいます。 | | |

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 職員が、成年後見人制度とは何か、また成年後見人制度の必要性についても理解できるように努めています。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居希望の相談や見学時に質疑応答を行い、さらに契約書類で説明を行うように努めています。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 入居者様やご家族様が声をかけやすい雰囲気づくりをし、日ごろから相談しやすい環境づくりに努めています。 | 家族との信頼関係構築は、入居前から真摯に相談に応じ、丁寧な説明をおこなうことで積み上げている。入居後も、電話や文書での情報共有や意見交換をおこない、相談しやすい環境づくりに努めている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員の意見を大切にして、業務に反映できるように努めています。 | 利用者本位の個別支援、生活環境、安全対策、楽しみや充実感が得られる活動などについて、職員間で意見交換し、運営に反映している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 実績、勤務状況、勤務態度により、給与に反映し、仕事にやりがいと意欲を持てるように努めます。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員の立場に応じて、必要な研修を受けられるように努めます。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 情報交換のできる機会と時間があれば、サービス向上につなげることができるよう努めます。 | | |

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前の情報収集を行い、職員が情報を共有する。入居者様が入居後、不穏にならないように努めています。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族様が困っていることとお伺いし、ご要望を傾聴しながら、関係づくりと協力体制を築くように努めています。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居者様とご家族の関係、本人の性格や習慣を把握し、必要な支援を早期に見出せるように努めています。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人本位であることを忘れないようにしながら、強制したりせず、声掛けやタイミングを大切にして対応するように努めています。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 新型コロナ感染予防のため、ご家族との外出や外泊が中止、面会制限もあり、本来の理念が活かされていない状況です。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 新型コロナ感染予防のため、自由に訪問していただけなくなっています。ご家族以外の方はお電話で対応していただくように努めています。 | コロナ禍を受け、対面での面会を制限している。家族以外の馴染みの人とは直接会えない現状である。職員は会話や写真閲覧、回想法などで馴染みの人との関係性が途切れないよう支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者様同士の相性や性格を把握しながら、できる限り孤立しないように努めています。 | | |

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去後もご家族様から相談をお受けすれば、可能な範囲で支援するように努めています。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人本位に生活ができるように、入居前の情報と入居後の状況把握に努めています。 | 利用者の思いや意向は、日々の生活の中で把握するよう努めている。得た情報は職員間で引き継いでいる。家族から利用者の生活歴について聴き取りもしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前の情報収集は、ご家族様、サービス提供者等による経過等の把握に努めています。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個々の認知症状、残存機能等を把握し、入居後もできることを継続していただくように努め得ています。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | モニタリング書式を変更し、職員が参加して把握できるようにすることでより現場の声を反映できるように努めています。 | 利用者の日々の生活や意向、課題を全職員でモニタリングし、介護計画に反映している。利用者ができることを尊重して支援をしている。変化があった際は都度、見直しをする。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 経過記録、申し送り、モニタリングを活用し、情報共有しながら介護現場と介護計画の見直しに努めています。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 入居者様の状態と家族関係を把握し、その場面にあった対応をしていくように努めています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 現在はコロナ感染予防対策の為、感染予防中心の中で安全に過ごすように努めています。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居後も専門医の診療が必要な方は、ご家族対応により通院していただいています。ホーム担当医が主治医の方は定期的に訪問診療を受けていただいています。 | 利用者、家族が希望するかかりつけ医を受診することができる。またホームでも協力医療機関の診察と訪問診療の体制があり、継続的に医療を受けられるようになっている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | ターミナルケア(看取り)を行っていないことから、訪問看護体制はありません。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時に、病院関係者と退院後のADL基準を話し合い、再びホームで生活可能な場合は、認知症という観点から早期隊員につながるように努めています。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ターミナルケア(看取り)を行っていないことをご入居前から説明しています。出来る限りホームで生活していただくように努めていますが、生活困難となった場合は、ご家族様と話し合いながら、その後の支援に努めています。 | 看取りはおこなわないことを入居時に説明している。経口での食事摂取ができない、医療ニーズの高まりなどが見られた際は、家族に連絡し、今後の支援について話し合いをしている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時の通報、連絡や報告が行える体制に取り組み、簡単な応急処置等の研修も行うように努め得ています。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の消防避難訓練と自然災害に対する避難訓練を行えるように努めています。 | 消火訓練、避難訓練、夜勤者訓練などに全職員が参加できるようシフト体制を整えている。災害時に備えて日々の役割分担が明示され、即時に対応できるようにしている。 | 非常災害時に備え、事業継続計画(BCP)の作成や周知、地域との具体的な協力体制の取り決めなどをおこなうことが望まれる。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 個々の性格、認知症状を把握しながら、プライバシー保護に努めています。 | プライバシー配慮のため、職員間で排泄にまつわる合言葉を作って活用している。スピーチロックにならない言葉かけを心がけ、利用者の尊厳の尊重に努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 傾聴に努め、その中から思いや希望を引き出すようにして、自己決定できるように努めています。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 出来る限り、入居者のペースに合わせるように努めています。また自己決定できる方は、出来る限り、その方の希望に添って生活していただくように努めています。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 訪問美容の利用(希望者はヘアカラー、パーマも行っている)や、お化粧品、衣類においても、喜びや意欲を持って頂くように努めています。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 新型コロナ感染予防のため、外食と食事作りの参加は中止となっています。時々、お楽しみメニューを取り入れることで、食事が楽しめるように努めています。 | 献立作成・食材配達は業者委託としており、調理は職員がおこなっている。利用者も一緒にできることを手伝い、食事が楽しくなるようにしている。月2回ほど、お楽しみ会で行事食を提供している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量、水分摂取量の確認を行い、嚥下状態に応じて、食事形態を変えたり、水分摂取量を調整するように努めています。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後に口腔ケアを行いつつ、希望者や治療が必要と思われる方は訪問歯科診療を受けていただくように努めています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 入居者様の排泄パターンを把握し、個々に合わせて、トイレ誘導、介助しながら、出来る限りトイレで排泄を促すように努めています。 | 利用者個々の排泄リズムを把握し、トイレへの誘導をしている。排泄の自立に向けた見守り、支援に努めている。失禁の際は、利用者の尊厳に配慮した対応を心がけている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 午前午後の体操のほか、通路歩行(新型コロナウイルス感染予防の為、敷地外の散歩は中止)、苑内駐車場でのお散歩、水分摂取等の取り組みに努めています。必要場合は便秘薬服薬対応となっています。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 原則、週2回の入浴となっています。1日の入浴が半数程度であることから比較的、ゆったりと入浴していただくように努めています。 | 利用者の身体状況や気持ちに合わせた入浴支援をおこなっている。入浴を拒む利用者には無理強いをせず、相談しながら安心して入浴できるよう働きかけている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日ごろから規則正しい生活を送っていただくことを心掛け、夜間の安眠につなげるように努めています。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員は入居者様に処方された薬情を確認することで、効能効果、副反応を理解します。変更や中止、追加があった場合、経過記録に記載され、さらに申し送りにされることで確認漏れがないように努めています。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 入居者様が、自信を持てるようなことに参加していただき、笑顔を引き出せるように努めています。嗜好品などの希望があれば、ご家族様にもご協力とご支援をしていただけるように努めています。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 新型コロナウイルス感染予防の為、現在は通院以外はホーム敷地内での生活を余儀なくされています。駐車場を利用し、外気に触れるように努めています。 | コロナ禍で外出が難しい状況となっている。ホームでは、敷地内の駐車場や玄関前を利用し、ラジオ体操や歌を歌うことで外出に替えている。外気浴の機会づくりに努めている。 | |

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 認知症の方の生活の場であることから、金銭トラブルになる可能性が高く、金銭所持の支援は行っていません。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご家族、入居者様の希望があり、自己管理ができる方に限り持ち込み可能としています。かかってきた電話はご本人に代わり会話して頂いています。手紙は一人で書くことが困難になり、出す機会が減っています。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | リビングや居室の窓の外の風景で季節を感じるができます。ホール等の壁にも季節の物を飾ったり、季節の歌を歌ったりしています。好きな音楽、馴染んだ音楽やテレビ鑑賞が出来るように努めています。 | 共用部分は清潔であり、季節を反映した装飾や作品が飾られていた。リビングには花が活けられ、音楽やテレビを鑑賞しながら、ゆったりと落ち着いて過ごせるよう環境を整えている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 決められた時間(食事、お茶、体操、お茶、バイタル測定等)以外は、自由に好きな場所で過ごせるように努めています。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 認知症の入居者様が居心地の良い居室になるように、出来るだけ馴染んだ物をご持参いただくようお願いしています。 | 各居室には表札があり、自分らしい温かな雰囲気の一部屋作りがなされている。今まで使っていたタンスや家族の写真など、馴染みの品が持ち込まれていた。安全面は職員が目配りしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 入居者様の認知症状、ADLを把握し、現在のレベルに合わせて、出来ることの把握と、安全に配慮しながら生活していただけるように努めています。 | | |